



内川小学校

所在地：金沢市別所町キ18番地

電話：076-241-4039

F A X：076-241-4039

HPアドレス：<http://cms.kanazawa-city.ed.jp/uchikawa-j/>

校長名：木村 和彦

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援 学級	合計
児童数	2	4	3	5	8	6	1	29
学級数	1		1		1		1	4

	校長	教頭	教諭等							養護	事務	校務	他	合計	
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	特学						他
職員数	(1)	1	1		1		1		1	1	(1)	(1)	(1)	0	5

1 平成23年度学力向上の取組内容の検証

(1) 学習基盤の定着について

「聞くこと、伝えること」を重点とした授業研究や日常での指導を行ってきた。特に、年4回の取組週間では、児童に「聞く・伝える」のレベルを設定し、めあてを決めて取り組ませた後、教師評価を児童に返したことは効果があった。このように、定期的に取り組週間があることで、ふりかえりを生かして今後の課題について話し合うことができた。

少人数という本校の特徴を生かし、全校体育の後やスマイルタイムなどの全校集会の場において、「聞く・伝える」ことについて観点を絞り指導してきた。文を短くし、つながりの言葉を使って話すことや、理由を述べて意見を言うことに気をつけさせたことで相手が聞きやすいように伝えることができるようになった。

(2) 授業の改善について

ア 基礎力を高めるために

漢字練習、計算練習などの基礎基本となるものは、授業中はもちろんのこと、朝学習や家庭学習でも繰り返し行ってきた。漢字は、全校で2ヶ月に1回まとめの漢字テストを行い、合格するまで繰り返し取り組ませた。結果、ほとんどの児童が合格点に達することができるようになった。また、金曜日の朝学習「わかたけタイム」の時間に単元別算数プリントを全校で取り組んでおり、各担任がきめ細やかな指導を行うことで計算力がついてきている。

イ 教師の指導力向上のために

昨年度より完全複式になったため、互いの授業を参観したり、他の複式校の授業を参観するなど、複式授業の在り方を研究した。また、複式授業における教師不在の時間の指導のあり方についてお互いの授業の良いところを取り入れることができた。

ウ 学習規律を身につけさせるために

次の授業の準備をしてから休憩時間に入ること・宿題をすること・朝学習の取組方・授業開始2分前の着席・授業中の姿勢や発言の仕方などを、全校で共通理解して取り組んだ。特に休み明けの時期には、全校で重点的に指導してきた。

2 学力等の現状分析

(1) 4年生の学力調査について

ア 国語科

漢字の筆順についての定着が不十分である。また、放送を聞き取る問題に課題が見られた。

イ 算数科

基礎的な計算力はしっかりついている。2つの図形や資料を読み取ることに課題がある。

(2) 6年生の学力調査について

ア 社会科

地図記号や大陸名を答えるなど地図の学習に課題が見られる。

イ 理科

太陽や月など、天体の動きの基礎的な理解が不十分なところが見られる。

(3) 本校の学力の分析

ア 国語科

(ア) 漢字の読み書きについて力がついてきている。

(イ) 主語・述語の理解については不十分である。

(ウ) 物語文、説明文など長い文章を読む力が不足している。(文章の量で意欲を失う。必要な情報を的確に取り出す力が弱い。)

イ 社会科

(ア) 都道府県や県庁所在地の位置などについてはしっかり把握している。

(イ) 資料が複数あるなど情報量が多い問題については正答率が低い。

ウ 算数科

(ア) 計算については十分に力がついている。

(イ) 時刻の計算については60分の単位の理解があいまいなため理解が不十分である。

(ウ) 資料が複数あるなど情報量の多い問題については正答率が低い。

エ 理科

(ア) 天体など実際の観察が難しい学習に課題が見られる。

(イ) 実験の意味などを問う問題に対して正答率が低い。

3 学力向上の取組

(1) 学習の基盤の定着

ア 「聞くこと、伝えること」を重点とした研究授業の交流を行い、互いに授業を参観しあうことで共通理解をはかってきた。

イ 年5回の「聞く・伝える」取組週間で、児童に自分のめあてを立てて取り組ませることを継続し、「聞く力・伝える力」の変容を検証した。

ウ 学校生活全体の中でも、「聞くこと、伝えること」の指導をしていく。「聞くこと」では、メモの取り方からはじめ、活用できるよう取組を行ってきた。また、普段の連絡帳も教師の話を聞き取って書くことを全校で取り組んできた。「伝えること」では、文を短くし、つなぎの言葉を使い分かりやすく話すことや、理由を述べて自分の意見を言うことなどを習慣化できるように指導してきた。

エ 長期休業中に復習ができるように、全校で算数のテストをつづることから取り組み、活用に至るまで指導を行ってきた。

オ 家庭学習の定着のために「内川がんばりノート」を全校で取り組んだ。学習例を児童に指導し、家庭の協力を得られるよう保護者にもプリント等で学習例をお知らせした。

(2) 授業の改善

ア 国語科

(ア) 漢字力向上のため、全校共通で漢字50問テストを定期的に行い、満点を目指して何回でも取り組んでいくようにしている。満点に到達した児童には、学校長からの表彰状を渡し、意欲を持たせる取組を行った。

(イ) 説明文の基本的な事項(初・中・終)や「問いの文」と「答えの文」などについて指導を徹底してきた。「書く」活動においても、説明文で学習したことを意識的に書く場を多く設けるようにした。

(ウ) 毎週水曜日の朝を読書の時間とすることで、時間を保障し読書の習慣をつけてきた。また、読書チャレンジ(図書館前に読んだ本を紹介するなど)の取組を行うことで読書意欲を育てる活動を行った。

イ 社会科

4年生以上は、各教科の学習で地名がでてきたときは地図上で確認させるなど、親しみながら学習させるように取り組んだ。

ウ 算数

(ア) 基本的な計算力をつけるため、金曜日の朝学習の時間に学年別の算数プリントに全校で取り組んだ。既習の復習をし、間違い直しをさせることでつまづきをなくすような授業展開を

多く取り入れた。

- (イ) 単元の初めには、既習の確認を授業の中に取り入れる場を設けることで、学習が積み上がっていることを意識させるような授業に取り組んだ。

エ 理科

(ア) 太陽や星の動き、人体の学習など実物の観察が難しい学習においては、デジタルコンテンツを活用した授業を行ってきた。

- (イ) 「何を調べるための実験か」また、「結果から何がわかるのか」をノートにまとめる活動を多く取り入れた。単元の終わりにまとめを書かせることで学習したことが生活の中にどのように関わっているかを調べる活動を取り入れた。

(3) 個別指導

(ア) 金曜日の放課後に個別学習のための「にここ教室」を開き、計算力の補充・定着を図ってきた。課題である時刻の学習の振り返りを行うことで理解することができた。

- (イ) 冬季休業中に、全校共通で主語・述語の課題を出し、1月に振り返りの時間をとって指導した。

4 その他の取組

(1) 全校体育

火曜日の朝学習は「全校体育」を実施。体力の向上と異年齢集団でのよりよい関わり方を目指して、集団ゲーム等を年間通して取り組んだ。

(2) 小中連携

ア 小中連携として、小学校1年生から中学生と一緒に運動会や文化祭等の行事に参加する中で、1人1人の役割をきちんと担い、積極的な姿勢で取り組むように指導した。

イ 小学校3年生～6年生の体育は中学校の体育教師と担任がTTを行うことで、小学生の発達段階を考慮しながら、体育の専門的な技術を身につける指導を行うことで体力の向上を図ってきた。